

令和7年度

1級造園施工管理技術検定第二次検定

解答試案

※ご注意※

- ・本解答は令和7年12月23日にCIC日本建設情報センターが独自に制作・編集したもので、予告なく変更する場合がございます。また、CIC日本建設情報センターが独自の見解に基づき制作したもので、試験結果等について保証するものではありません。
- ・解答試案の内容及び正当性に関するお問い合わせは受け付けておりませんので悪しからずご了承ください。
- ・試験実施機関の(一財)全国建設研修センターとは一切関係ございません。



日本建設情報センター

<https://www.cic-ct.co.jp>

不許複製

全問解答必須

【問題 1】

(1)

(イ)	【有孔管敷設のための掘削作業】 ✓ 掘削作業は、バックホウやトレンチャー、手掘りにより排水勾配を確実にとり、下流から上流へ、集水渠から吸水渠へと進める。 【有孔管敷設後の埋戻し作業】 ✓ 埋め戻し作業時は、有孔管の設置において管内への土壌水の流入を容易にし、かつ土砂の流入を防ぐフィルター材を管の周囲に入れ埋め戻す。フィルター材として碎石や火山砂利、黒曜石パーライト、枝を束ねた粗朶(そだ)、もみ殻などを使用する。
(ロ)	黒曜石パーライト、炭酸カルシウム

(2)

(イ)	✓ 重心を見極め、2点吊りで樹木が回転しないようにする。吊り上げる際、吊り具(ベルト)で締め付けられる幹の部分には当てものを取り付ける。 ✓ トラックの荷台に積み込む際、幹と荷台に接触する部分に当てものをする。 ✓ 荷姿を小さくするため枝しおりを行う。幹に近い内側の枝から、外枝の順にしおり、枝葉の損傷を防ぐ。
(ロ)	✓ 土壌の乾燥・早害防止 ✓ 地温の調節 ✓ 雑草の防止 等 その他の解答例としては、霜害防止、土壌改良等が挙げられる。

(3)

(イ)	【作業目的】 ✓ 根が切られ、水分の吸収量が減少することで、水分供給と消費のバランスが崩れる。葉がしおれて枯れる可能性があるため、剪定作業を行う。 【作業方法】 ✓ 折損した枝葉を切除し、からみ枝や立枝、徒長枝等の不要枝を取り除く。枝葉の密度が均一になるよう樹形を整えながら剪定を行う。
(ロ)	✓ 所定の寸法を満たし、割れや腐れのないまっすぐな幹材を選定する。 ✓ 防腐加工は焼き材や表面処理より、耐久性や防腐・防虫効果の高い加圧注入材で統一する。
(ハ)	✓ 移植したばかりの樹木は根づいておらず、わずかな風でも樹木が揺り動かされることにより、根鉢にひび割れが生じる。ひび割れが原因で、根が傷つき、水分が十分に供給されなくなり、枯損や枝枯れの原因となる。このようなことを避けるため支柱を掛けることが必要である。

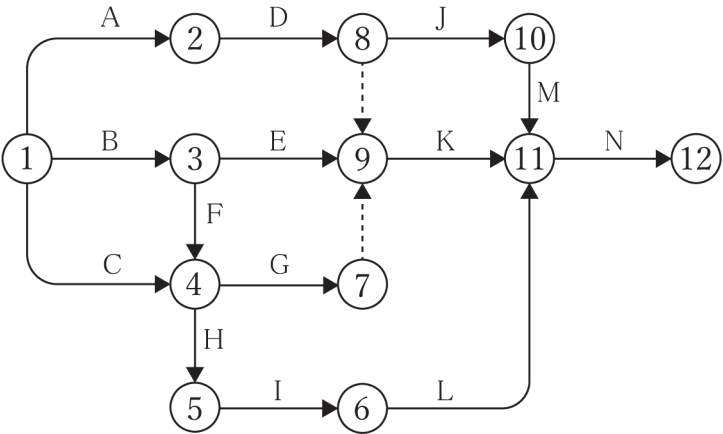
(4)

①	A	標準仕様書
	B	特記仕様書
②	C	施工体制台帳

【問題 2】

(1)

(イ)



(ロ)	B→F→G→K→N (図-1 参照)
(ハ)	2 日 (図-1 参照)
(ニ)	17 日 (図-2 参照)

図-1

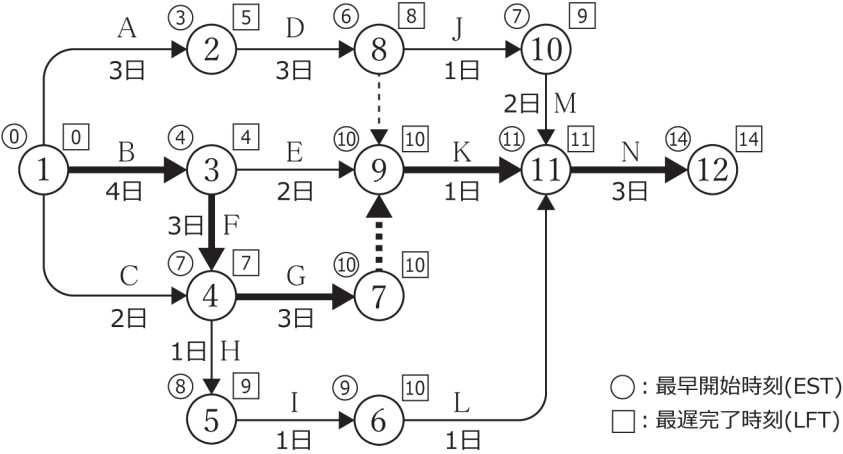
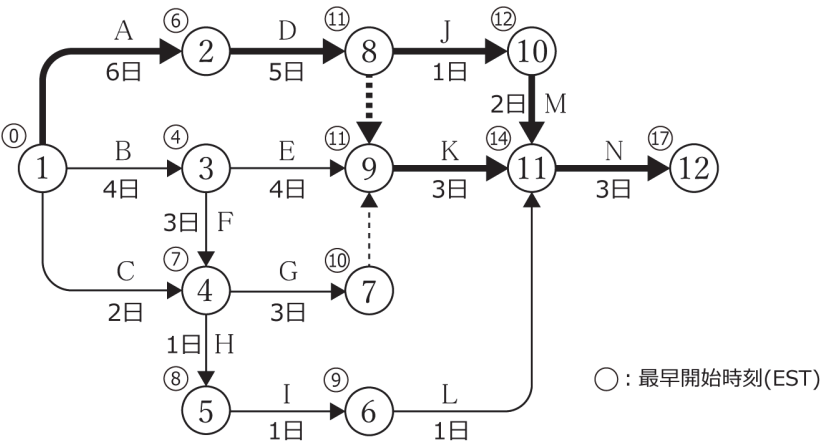


図-2



(2)

A	作業可能日数
B	所要作業日数
C	1日平均施工量

(3)

<ul style="list-style-type: none"> ✓ 資材の不足による手待ち時間の発生 ✓ 建設機械が効率よく稼働されるような整備・修理などのサービス体制の不備等。その他の解答例としては、 ✓ 設計図書の理解不足により発生した手戻りが挙げられる。
--

【問題 3】

(1)

(イ)

1)	ウ、オ	
2)	①	1.2
	②	上部
	③	最長と最短の平均

(ロ)

1)	樹種の特性に応じて節間が詰まり、枝葉密度が良好であること。
2)	ほふく茎
	病虫害
3)	根系の発達が良く、細根が多く、乾燥していないこと。

(2)

(イ)

根腐れ

(ロ)

減水速度(最終減水能)	45 mm/時
判定結果	可

【問題 4】

(1)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 安全衛生に関する規定 ✓ 各作業内容と労働災害防止対策等 <p>その他の解答例としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 指揮命令系統の周知 ✓ 混在作業場所の状況や作業相互の関係 ✓ 危険箇所の状況や周知が挙げられる。 		
(2)	(イ)	A	吊り上げ
		B	5
		C	技能講習
		D	7
	(ロ)	<p>【地切りの際の措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 荷がわずかに浮く約 10 cm 高さの状態で停止し、機体や吊り荷の安定を確認する。 <p>【合図を行う際の措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 吊り荷の下に作業者が立ち入っていないこと等、常に吊り荷を監視し、状況を確認しながら運搬経路に沿って誘導する。 	
(3)	(イ)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 作業床から身を乗り出して無理な体勢で作業をしない。 ✓ 無理な体勢で枝を引き寄せようとしない。 	
	(ロ)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ あらかじめ合図の方法を定め、樹上と樹下の作業者同士で声を掛け合い、合図を行ってから幹の中心方向に剪定枝を投下する。 ✓ 通行人を確認する作業員を設け、通行人がいた際は、当該作業員が確実に樹上作業者に伝達し、投下作業を中断できるようにする。 	